

ハラスメント被害への対応のあり方 ～被害の実態をもとに考える～

フェミニストカウンセラー

川喜田好恵

1. まず、「ハラスメント」とは何かを知っておこう

<ハラスメントとは>

教育・研究の場、職場、地域、文化活動や宗教信仰の場など、あらゆる場で
そこに生じている力関係 を不当に利用して、
相手の意に反する言動を行うことによって、
相手の人格を傷つけ、
学習や労働や生活の環境を悪化させたり奪ったりする人権侵害をさす。

ハラスメントにあたるかどうかは、

加害者の意図や認識の如何にかかわらず、
結果として上記のような人権侵害が生じたかどうかによ って判断される。

<さまざまなハラスメント>

①セクシュアル・ハラスメント

・ 職場や地域・学校などで、卑猥な冗談を言ったり、身体に触れたり、じろじろ見たりする
など性的な言動を行って相手に不快感や苦痛を与え、相手の人格を傷つけて学習・労働や
生活の環境を悪化させ（環境型）、或いは、職務上の地位や教育・研究などに関する権力
を使って相手の意に反した性的な要求を行い、それに応じない場合などに相手に不利益を
与え学習や労働の機会を奪ったりする（地位利用型）こと

②アカデミック・ハラスメント

・ 教育・研究における力関係を不当に利用して、就学・研究妨害や不利益な取り扱いをおこ
なったりすることで、相手の意欲及び就学・研究環境を著しく阻害すること

③パワー・ハラスメント

・ 職権などのパワーを背景にして、本来の業務の範疇を超えて継続的に人格と尊厳を侵
害する言動を行い就業者の働く環境を悪化させる、または雇用不安を与えること

<パワー・ハラスメントになりかねない言動>

攻撃＝罵声を浴びせる、威圧的な態度で身体接触をする

机などをたたいたり書類や物を投げたりして脅す

否定＝欠点をあげつらう、人格・学歴・性別・出身などを否定する

「明日から来なくていい」などと言う、挨拶や会話をしない

強要＝「言われたようにやれ」など強要する、人前で土下座させる

失敗や責任をおしつける、不正行為を強要する

妨害＝昇進の妨害をする、仕事を取り上げる、情報を与えない、

周囲に無視するよう促す

2. なぜ、ハラスメントがおこるのか

< 「組織」に生じる「見えない力」 >

- ・報酬に関わるもの——給与だけでなく、教育・研究上の指導などを与える力
- ・規則・規範を作り、従うことを当然とする力（言うとおりにしないと排除される）
- ・上司・先輩・モデルとしての影響力
- ・エキスパートとしての力——「この分野では、この人が専門、この人に頼るしかない」

気付かなくても、上記以外にも組織のなかには支配や権力関係が潜在していて、人間関係に影響を与えている

< 「ハラスメント」理解のポイント——「相手の意に反する」「意図・認識に関わらず」 >

- ・性や身体、男女関係、人間関係に関する意識には、個人差・男女差がある
- ・「軽い冗談」から身体への接触・暴力まで——する側の意図・認識ではなく、された側が不快に思えばハラスメントになる
- ・「逆えない」関係の無自覚、悪用はハラスメントの土壌
- ・性や身体に関する言動だけでなく、ジェンダー差別に基づく言動にも注意
- ・人権(人格権)の侵害——性的自己決定権やプライバシーの侵害、活動などの妨害、

3. ハラスメント と ジェンダー

< ハラスメントにつながりやすいジェンダー差別 >

- ・「女らしさ・男らしさ」などに関わる固定観念
- ・女性の役割を「補助的なもの、下支え的なもの、人の世話係」とみる性役割意識
- ・労働の場での「男性中心的」文化 ——「働き方」のモデルが「生活責任を負わない男性
- ・女性を性的な対象としてみる文化

< ジェンダー問題の視点で見るハラスメント >

① コミュニケーションに於ける「ジェンダー格差」

「キャッチボール型」コミュニケーション と 「 ? 型」コミュニケーション

② ハラスメントに至るコミュニケーションパターン

最初の言動 —— 相手の反応 —— 次の言動 ⇒ (セクシャル)ハラスメント
(見届け) (訂正・謝罪・撤退) ≠ (セクシャル)ハラスメント

< ハラスメントが見過ごされやすい背景 ～ 意図的・積極的な加害行為はみつけにくい >

- ・加害行為をするものが、証拠が残らないように被害者を脅したり嫌がらせをする
- ・加害者は組織の上位者に対しては、全く別の顔をみせる
- ・周囲も加害行為に加担（見ないふり）をしていて、加害者が孤立している
- ・周囲が加害者(権威者)に有利な証言をするため、被害事実が認定されにくい
- ・組織の教義・体制・方針などの中に、ジェンダー差別などが構造化されている

4. 問題とされる事象が起こった場合の対応 ～ケースをもとに考えよう～

<基本的な心構え>

- 問題を軽く考えない ○速やかに対処を開始する ○先入観を持たない
- 被害者の救済を最優先に考える ○プライバシーを守ることを配慮する
- 被害者が被害を訴えたために、不利益を受けないように配慮する

1) 被害者からの相談にあたっての留意点

相談者(被害者)の側の状況

- ・すでに混乱と痛みの中にある
- ・組織や社会の価値観によって、「自分の側に非がある」のではないかとの思いを持つ
- ・被害を受けたことによって、自己尊重感が損なわれている
- ・生活が脅かされたり、心理的な安全が失われたりしている
- ・被害によって、組織の中で孤立させられている(「問題の人」「迷惑な存在」)

- ① 相談には、(少なくとも1名は相談者と同性の)複数の担当者が当たる
- ② 相談に用いる部屋は、プライバシーを守ることが出来るような配慮をし、相談者が安心して話せる雰囲気を作る
- ③ 被害にあって動揺している可能性も含め、相談者の立場に立ってその気持ちと主張を十分に聴く
- ④ 男女の固定感念や社会通念の偏りに注意し、自分の中の先入観を自覚する
- ⑤ 事実関係を的確に把握し、その内容を相談者に確認するとともに、必ず記録する
——確認の過程での被害者の心理的負担に充分配慮し、できるだけ軽減するよう努める
- ⑥ 相談者と相談の対象となっている者を、同席させて話を聴くことの無いよう留意する

2) 被害者に対して

- ① 「被害者の立場」に立って話を聴き、混乱を受け止める。特に、被害を言い出しにくい(言い出しにくかった)状況を理解する。
(「被害を公にしたくない」「相談しても、自分の落ち度を攻められるのではない」「仲間から孤立するのではないか」「トラブルメーカーと思われたくない」「こんなことにも対応出来ないと思われたくない」など)
- ② ハラスメントの定義、性暴力とは何かなどの情報を被害者にも提供し、自分に起こったことについて被害者が理解できる枠組みを提供する。(心理教育)
- ③ 被害者が何を求めているのかを確認し、組織として出来ること出来ないことを整理してわかりやすく伝える。
- ④ 被害ゆえにおこった心身の不調や生活上の不利益に関しては、迅速な救済措置を検討する
- ⑤ 被害者の自己決定をサポートし、次のステップや被害者の権利回復への援助をする。
- ⑥ 必要に応じて、トラウマカウンセリングなど専門家との連携を取る。

5. 組織としての対応と二次被害の防止—— 加害者とされるものへの対応も含めて

- ①被害者の救済と心のケアを最優先に考える。その際、必要に応じて校外の専門家との連携も検討する。どのような場合でも、被害者のプライバシーが守られ、被害事実の相談自体が本人の不利益にならないように配慮する。
- ②一方で、管理責任者は(調査委員会などの設置も含め)、加害者とされるもの、及び、必要に応じて第三者からも情報を収集するなど、ガイドラインにそって客観的で校正な立場での問題の把握に努め、あらかじめ決められた社内規定などによってしかるべき措置をとる。
- ③事実確認の過程での、被害者の心理的負担に充分配慮し、非難や批判などで精神的に打撃を受ける事の無いように注意する。
- ④被害事実と直接関係のないプライバシーが詮索されたり、加害者の行動よりも被害者の行動に関心がむくようなことのないよう注意する。
- ⑤これらのプロセスを組織として対応し、この間のプロセスを隠蔽しないで適切に公開すると共に、再発防止の取り組みを明示する

6. ハラスメントの起こらない職場にするために

～「予防教育」「対応ガイドラインと窓口」「被害者ケアと加害者対応」～

- ①啓発パンフレットの配布や社員研修を通して、組織全体に対してハラスメントの起こる背景・構造についての理解を徹底する
- ②被害が起きたときの対応ガイドラインを組織内で取り決め明らかにしておく
「相談窓口」から「被害救済」「加害者の処罰」などに至るフローチャートなど
- ③信頼できる中立的組織・窓口を設置するとともに、処分などに関する社内規定を作成する
「相談窓口」「苦情処理委員会」「調査委員会」など
- ④被害者へのケア(カウンセリングなど)と救済のための措置をとり、必要に応じて加害者の再教育のためのカウンセリングなども検討する

注意： 「消極的加害行為」「無自覚的加害行為」などの啓発にも留意

- ・消極的であっても、加害行為に加担した場合には、ハラスメントの加害行為を行ったと認定する可能性があること等をガイドラインに明記する
- ・無自覚的加害行為を防ぐために、コミュニケーション・スキルを向上させる研修などを、定期的におこなう

1) 性暴力被害とは

① 性暴力とは

- 強要された、或いは、同意の確認のない状態での性行為
- 対等でない相手から、或いは、「ノー」と言えない状況で受ける性行為
具体的には：痴漢、強制わいせつ、強かん、ストーキング、セクシュアル・ハラスメントなど
の他、パートナーへの性的暴行、子どもへの性的暴行、子どもへの性虐待、
人身売買、障がい者への性的暴行なども含まれる

② 性暴力被害の実態（内閣府の調査などから）

- 被害体験： 女性の7.3%が「異性から無理やり性交された」経験がある
- 性被害にあった時期： 多くは20代で(38.2%)、30代で(15.4%)であるが、
小学校入学以前に(3.3%)、小学生で(12.2%)、
中学校で(4.9%)と言う事実も。
- 加害者との関係： 「よく知っている人」 61.8%
「顔見知り程度の人」 13.8%
「全く知らない人」 13.8%
- 被害者の陥る世界 … 性被害の意味するもの
 - ・ 何が自分に起こったのかわからない — 混乱
 - ・ 自分が汚された感じ、汚れた感じ
 - ・ 昨日までの世界の崩壊、自分が壊される感じ、
 - ・ 屈辱、孤立、
 - ・ 自分だけが人と違う — 「もう、人と同じ人生は送れない…」

2) 社会に潜在する「ジェンダー観」の影響と二次被害の可能性

- ▼ 「本当に嫌だったら、逃げたり助けを求めたりできるはず。」
⇒ 予期せぬ展開と心理的な混乱や屈辱感の中で、とっさに反応することは困難。
実際には、「辞めて！」などの反応をしていても加害は続くことが多い。
- ▼ 「そのような状況(深夜の外出、加害者との飲酒など)は被害者の方で回避すべき」
⇒ 状況が性加害を作ったのではなく、加害者の行動が加害を生じたもので、
被害者に責任を転嫁するのはまちがひ。
- ▼ 「被害を受けたと感じたのなら、すぐに警察に届けたり、訴えたりするはず。」
⇒ 性被害に対する社会的な偏見などにより、親には話せなかったり、周囲に相談できる
人がいなかったり、自分で何とか解決しようとしたりする。
⇒ 当事者にとって、苦痛な体験を思い出したり、直後に人に語ったりするのは困難。
- ▼ 「女性の言動、服装、などに加害者が刺激・挑発されたのではないか？」
⇒ 親密な身体的・性的接触や関係は、合意の下で進むべき。また、合意の確認は
関係を求める側に責任がある。言動や服装は各個人の自己表現であり、女性を
性的な側面だけで見ようとする視線の方に問題がある。

3) 「心的外傷後ストレス障害(PTSD)」

■PTSD とは「死にそうになったり、大怪我をしそうになったり、自分の身体の統合性に脅威が及んだりするような出来事を直接個人的に体験し、そのことで本人が『強い恐怖、無力感または戦慄』を感じる」トラウマがあり、そのトラウマがさった後に発症する ①過覚醒 ②再体験(侵入) ③回避・麻痺(狭窄)などの症状のこと。

< 過覚醒 > 過度に神経が過敏になり、周囲の音や人の気配などに敏感で、普段なら驚かないことに反応したり、些細な事が気になったりする。不眠がつづき、イライラしたり、何事にも集中できなかつたり、気が休まることが無く疲れやすかつたりする、など。

< 再体験 > 「フラッシュバック」のように、トラウマの体験をもう一度、その時の状況のように体験してしまうこと。記憶として思い出すだけでなく、心身の感覚や状態も当時のままに体験されることがあり、それに対する様々な身体症状も起こることがある。再体験は、トラウマ事件と似たような状況に置かれたときに怒ることが多いが、当事者にとってはそれが何時起こるかかわからないので大変苦しく、日常生活をつづけることが困難になる。

< 回避・麻痺 > トラウマに関連するもの一場所、状況、人、乗り物、などトラウマを思い出させるものをすべて回避しようとする傾向。また、自分自身の心身の感覚や感情を麻痺させることで、トラウマ記憶や刺激を遠ざけておこうとする試み。しかし、それによって、行動が制限され、人間関係も狭くなり、感情が感じられず、痛みや味覚などの感覚も鈍くなるような場合もあり、正常な日常生活を送ることが難しい場合もある。

■ハーバード大学の精神科医、ジュディス・ハーマン博士によると、このような反応が起こるのは、「行動が無益なとき・・・抵抗も逃走も可能でない時には、人間の自己防衛システムは圧倒され、解体に向かう。危険に対する通常反応を構成するものはいずれも、その有効性を失いながら、現実の危険が去ったあとも長期間持続する。それも正常とは違った、激しすぎる状態が続く」とされる。

■しかし、これらの症状は、人が自分の限界を超える危険に遭遇した時に起こる防衛反応であり、トラウマ状況の中で自分を守り生き延びるためにとる一時的な症状であると考えられる。症状は苦痛を伴うが、時間の経過と適切な対応(ケア)の中で改善するものであり、当事者や周囲の人間がそのことを理解していることが重要。